



九条の樹

107号
2024年7月発行



発行：東久留米「九条の会」 連絡先：Tel. 042-473-9489 (鈴木)
http://higashikurume-9.net/ メール：higashikurume9j@gmail.com

「平和主義」から逸脱 「死の商人国家」へ

次期戦闘機輸出を閣議決定

6月4日、参議院外交委員会で次期戦闘機の共同開発、生産、輸出を推進する共同機関を設立する条約承認案が自民、公明、立民、維新、国民の賛成、共産、沖縄の風の反対で可決されました。

今年3月にイギリス、イタリアと共同開発する次期戦闘機を第三国に輸出する方針を閣議決定したことによるものです。

武器輸出は禁止してきた

武器輸出三原則は1967年佐藤首相、76年三木首相らによって「国際紛争当事国やその恐れのある国への輸出禁止、憲法等の精神にのっとり武器の輸出をつしむ」、「武器とは護衛艦、戦

闘機、戦車のようなもの」と規定されました。その後1981年には衆参両院本会議で「平和国家の大原則から武器輸出をしない」と全会一致で決議もされています。

ところが第2次安倍内閣が2014年「防衛装備移転3原則」で武器輸出推進に転換しました。ただし、直接的な人の殺傷が可能な殺傷兵器の輸出は禁止していました。

岸田首相はその制限も突破して昨年12月三原則を改定し地对空ミサイルパトリオットのアメリカへの輸出を行いました。これに続いての次期戦闘機の輸出解禁です。

軍需企業の「コスト減ねらう

防衛省は第3国への移転(輸出)について「調達価格の低下等に向

けて完成品の第3国移転を推進する」といつています。単価を下げて開発する軍需企業の利益が念頭にあると考えられます。

政府は2015年には「防衛移転三原則」は「国際紛争の助長回避などを図るもの」「憲法の平和主義にそぐうもの」といつています。

現政権はこの立場も投げ捨てるものです。

(東久留米九条の会事務局)

能登半島地震募金のお礼

4月29日に「松元ヒロソロライブイン東久留米」が開催されました。主催は「松元ヒロとあう会」で、東久留米「九条の会」もメンバーとして参加しました。

多くの方々より支援募金78128円が集まり、会からのカンパを加え、10万円を石川県災害対策連絡会へ送金致しました。

ご協力ありがとうございました。

憲法審査会の動きを

じっくり見つめよう



東久留米革新懇の松元忠篤さんは、東久留米年金者組合の二ユースに『守り生かそう憲法九条』というコラムを連載されています。最近の記事から転載させていただきます。

「裏金」議員は憲法審査会に出る資格なし

岸田首相は1月30日の施政方針演説で「あえて自民党総裁として申し上げれば任期中に『改憲』を実現したい」と明言。公明党の北川副代表は、1月31日、緊急事態条項について「議論が熟しているので、条項案を党としても検討したい」と発言。憲法審査会は2月13日現在開催されていませんが、支持率低下の維新と、国民

主党は、改憲で成果を上げようと憲法審査会開催を煽っていますので予断を許しません。

立憲民主党は予算審議中は参加しないと、前の野党筆頭幹事が発言し、また、参院の野党筆頭幹事辻元清美氏は、裏金問題の山谷えり子・西田昌司両自民党参院議員が「幹事」になることは許されないとし、

「開催には応じない」と発言しています。衆議院憲法審査会委員の自民党委員5人が「裏金議員」、参議院憲法審査会委員では自民党21名中11名が「裏金議員」。「裏金にまみれた自民党議員は憲法審査会に出る資格はない」「国民は改憲を望んでいない」の声を上げていきましよう。

(24・2)

3補選勝利・憲法集会 3万2千人を確信に改憲 NO!

5月9日、衆院憲法審査会が開かれ自由討議。

自民中谷元氏は緊急時に国会機能を維持するため、各党間で起草作業を行い、論点を議論すべき。機は熟したと述べ、起草委設置に応じるよう主張。維新や公明、国民民主も条文案の作成に着手すべきと。

立憲民主逢坂誠二氏は議員の任期延長に反対し、選挙人名簿の管理や自治体間の応援体制を考える必要がある。この検討なく、安易に議員任期を延長するのは順序が逆だ。同党本庄知史氏も「極めて小さな可能性」に殊更に焦点を当てていると任期延長論を批判。共産の赤嶺政賢氏は、毎週のように憲法審査会が開かれ、改憲議論をおおる主張が繰り返されてきた。9条を変

えるべきではないという世論が多数を占める事実を重く受け止めるべきだと。

(24・5)

自民「機は熟した」、立民は議員任期延長反対

維新の会の三木圭恵氏は「緊急事態における条文案の起草作業に進むべきだ」という意見に賛成だ。起草委員会を作ること自体に反対するイデオロギーに縛られた政党間の足の引っ張り合いに時間を費やすのは、むだな作業だ」と述べました。

公明党の河西宏一氏は「新型コロナウイルスなど大規模な緊急事態に近年直面し、立法府がどう応えていくかが問われている。任期延長の条文案について、たたき台をもとに議論すべき段階を迎えている」と述べました。玉木雄一郎氏（国民民主）は「来週からは全会派を入れ

た起草委を設置し、条文案作りに着手することを求めたい」と念を押しました。

(24・5)

4月の衆院3補選の結果、立憲の憲法審査委員が増え、有志の会の委員ゼロに。ところがなんと自民党が委員1枠を有志の会に譲る。

この日、有志の会の名札もなく、北神圭朗委員も現れませんでした。衆院のホームページに5月8日付けの委員名簿が掲載されましたが、有志の会の委員名はありませんでした。

4月の衆院3補欠選挙で立憲民主党が全勝した結果、有志の会の枠が1人からゼロになり、立憲の枠は1人増えて11人となりました。

ところが、同日の与野党の衆院議院運営委員会理事会で、自民党が衆院憲法審査会(定数50人)の委員1枠を、無

所属議員でつくる会派「有志の会」に譲ることを了承しました。自民党は、改憲を訴える有志の会の枠が1人からゼロになるより、自分たちの委員を譲った方が得策と考えたようです。

あらためて 公明の衆参で党内の意見の不一致が表面化!

参院憲法審査会は8日、国会で初の実質的な審議となる自由討議を行いました

自民党は「裏金議員は憲法審査会委員の資格なし」の批判を受け、衆議院で5人中3人(下村博文氏ら)、参議院で11人中8人を交代させました。しかし、衆院では稲田朋美氏ら2人、参院では3人の裏金議員が残っていて不十分です。

衆院憲法審査会は、4月4日に幹事選任だけ行い、4月11日に国会をはじめでの実質的な審査会が開かれ、自民は緊

急時の国会機能の維持については、いつでも条文の起草作業に入れるので、憲法改正の原案作成を協議する環境整備を提案。立憲民主は裏金問題を解決できず、自浄作用のない自民が憲法改正を論ずる正当性はない。国民が納得する結果となるよう努める必要がある。共産は国民から要求がないのに政権側が改憲を押しつけるのは本末転倒、裏金事件で自民は改憲を語る資格はない、と主張。維新の会、公明、国民民主もこぞって改正原案をつくるべきだと主張しました。

(24・6)

日本国憲法

第二章 戦争の放棄

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

『平和を考える本』

『旅のネコと神社のクスノキ』

(池澤夏樹・文 黒田征太郎・絵)
(株) スイッチ・パブリッシング



定価 1870円

現存する被爆建物「旧広島陸軍被服支廠」をテーマにした絵本。

1945年7月、旅の途中で煉瓦造りの大きな建物を見つけたネコは、神社のクスノキに尋ねた。「あの大きな建物は、なに?」

「りくぐんひふくししよう」といって、兵隊の服を作り、返ってきた服に穴があいたら繕いをするところ。それは、次の兵隊に着せるために。

「服が返って来るとは?」「服になぜ穴が開くの?」「次の兵隊って、人は生えてくるものなの?」……。ネコのそんな疑問に答えながら、クスノキは未来を予見して怯える。

広島に原爆が投下されたのは、それから間もない8月6日午前8時15分のことだった。(高田桂子)

中国からの引き揚げと戦後のくらし

皆川和枝（浅間町）

私は1940年に中国・東北部の長春で生まれました。

1945年8月15日の終戦3日前ごろには隣町にあった軍属の家々は、もぬけの殻になっていたことと、ソ連軍が南下してくるとの情報から私たちは翌16日、着の身着のまままで北朝鮮の鎮南浦というところに疎開しました。そこで約1年余り抑留されました。私が5歳、兄7歳、妹3歳でした。

翌年9月に鎮南浦を脱出して、38度線を突破したところで米軍にだ捕された父のメモに記されています。そして、1ヶ月後の10月に仁川（じんせん）という港から引き揚げ貨物船に乗船。帰国できたのは長春出発から14ヶ月後で、長崎の佐世保港に上陸しました。

私は、当時大流行していた疫病にかかり、父が引き上げ部隊の部隊長をしていたことから、家族に付き添ってくれた兵隊さんに背負われ、九死に一生を得て帰国できました。3歳の妹と7歳の兄は遠い道のりを歩き通し、足は血と泥にまみれ、ズックはぼろスリッパのようだったと後々の語り草になりました。引き揚げてくるときの記憶は殆どありませんが、朝鮮半島の38度線を越えるとき、時々ピカッと光り、ドンという大砲の音が聞こえる闇夜の塹壕を黙々と歩く列や、引き揚げの貨物船の甲板から、死んだ子どもが箱にいれられ石をつけられて深い海に沈められる光景、一日2回の粟やヒエ、コーリヤンが入ったうすい粥と暗い船底に多くの人々が寝転がっていた光景が記憶にあります。

* * * * *

30数年前、引き揚げ船で上陸したこの佐世保港を兄と妹と訪

れました。その港には、船上から日本の陸地を見てたらずむ親子像が建っており、そばには、当時の引揚者の様子を記した「碑」が建立されていました。そこには、「懐かしい祖国のこの地によやくたどり着いた引き揚げてきた人々は疲労しきっていた。ここの検疫所で体中を消毒され（DDTで真っ白になった女の子の写真がありました）、7キロほど離れた引き揚げ援護局で2〜3日泊められ、それからまた疲れ果てた身体をひきずり、ここから10キロ先の佐世保駅まで徒歩で移動した。肩を落とし、うなだれて歩く長い列が駅まで続いた」と、当時の引き揚げてきた人々の様子が手に取るように克明に記されています。

佐世保駅から汽車を乗り継ぎ山形の父の実家に転がり込み、数ヶ月後には同県内の母の実家に移動、そこで7つ下の妹が仮死状態（脳性小児麻痺）で生まれました。衰弱した母体から生

まれたことが原因だったことが後で分かりました。

スポーツ万能だった兄が中学2年の時、突然筋肉萎縮症という難病になり、父母が将来を考えた大学だけは出したいということから、私と妹は昼働き、勤め先から夜間高校に通いました。1クラス55人ほどいましたが、15人ぐらいが片親で両親ともない人が3〜4人いたように思います。

父が毎月25日にもらう給料は、翌月5日には家賃と1ヶ月分の米、味噌、醤油代で無くなり、次の給料日までは母の内職で暮らしました。徹夜もしながら和服の訪問着を仕立てていた母は、私が夜間高校を卒業した年の8月のとても暑い日に、脳溢血で突然死にました。42歳でした。1万円の内職代と命を引き換えにした母の心身の疲労を思うたびに、腹の底からの怒りと悲しみて涙が溢れて仕方ありませんでした。

2024年6月